

第5回プラウト研究会

日本史における社会サイクル試論

岩崎 090925

<参考文献>

ダダ マヘシュバラナダ 著、岩崎・松尾訳『資本主義を超えて』世界思想社。
松尾光喜著「日本史における社会サイクル試論」『サーカーの思想1』ナチュラルスピリット。

社会サイクルの基本のとらえ方

サーカーの人類史における社会サイクル論（『資本主義を超えて』第7章より）

○シュードラ（労働人、民衆）→クシャトリア（武人）→ヴィプラ（知者）→ヴァイシャ（商人）→シュードラ革命→……

○原始時代 シュードラ（労働人、民衆）

氏族、部族の形成 母権制

クシャトリア（武人）の誕生 部族間の闘争

ヴィプラ（知者）の誕生 火の使用、弓と矢、… 兵法

古代 ローマ帝国、中華帝国 クシャトリア 私有財産と父権制

中世 行政官と組織宗教 ヴィプラ

初期仏教時代、ヨーロッパ中世修道院、

近代 市場社会と資本主義 ヴァイシャ 新しい商業階級の時代

民主主義、世界の植民地化、資本主義の経済競争

これから シュードラによる反乱、革命→サドヴィプラの前進

日本史における社会サイクル試論

▼第1サイクル

（縄文～大和～平安）

広義のシュードラ時代。貴族（ヴァイプラ）はシュードラの血縁的名家。武勇派（クシャ）は貴族の配下。

○原始社会——大衆（シュードラ）の時代 階級の未分化

縄文時代は、精神的には毎日の生活に追われるしかなかった大衆の時代です。武勇、知力、財力の未発展の時代です。

○古代部族国家形成（ほつまつたえに書かれている世界）

○大和朝廷の成立 5世紀

○推古朝・飛鳥文化（知力派のリーダーシップへの動き）

仏教も渡来人。聖徳太子、隋に南淵請安などの留学生

* 知力派の主導権の時代へ

○ 律令国家の形成 大化改新

645年、中臣鎌足と中大兄《皇子、近江令、庚午年籍という戸籍
八色の姓という官僚制度

* 蓄財派の支配とその破綻

平安時代の支配者層の権力基盤は荘園、自墾地系から寄進地系荘園へ
勢力のある貴族や寺／強い勢力を持ったのが藤原氏

摂関家の藤原氏から院に代わり、寄進地荘園はますます院に

- ・ 武勇派としての武士の登場 平氏は院を護衛する兵の一部、・・・
平氏は全国 66 カ国の約 30 カ国を支配し、宋との貿易による利益
- ・ 各地の武士団は平氏への不満から源氏の側に結集するようになっていきました。

▼ 第2サイクル（鎌倉～江戸幕府） 武勇派（クシャリア）の時代

源頼朝、鎌倉に、武士団のための組織 阪東武者＝武装した農民（シュドラ）

京における院すなわち上皇の支配と、鎌倉の武勇派支配者との二元的な支配

○ 鎌倉幕府

* 知力派の台頭 1232年の御成敗式目（3代執権の北条泰時）

* 蓄財派の台頭

元寇後に貨幣制度の発達。武士は高利貸しから金を借り、疲弊。

北条氏による全国の土地支配（＝北条氏の偽ヴァイシャ化）。

○ 足利尊氏《あしかがたかうじ》の台頭。1333年に鎌倉幕府滅亡。

鎌倉時代と同様の二元的支配の中の武勇派の支配

◎ 武勇派の支配確立へ

織田信長は、1573年には義昭を京都から追放して室町幕府を滅ぼす。

豊臣秀吉は、大坂城を築き、1590年に全国制覇

徳川家康は、1603年征夷大將軍となり、江戸に幕府を。

○ 知力派の台頭へ

3代将軍家光の時代で幕府の基礎が固まり、官僚制度が確立していく中で知力派が前面に出る時代へ。

11歳の幼い将軍家綱を支えたのは知力の優れた保科正之や酒井忠勝ら。

1683年には文治政治への転換。5代将軍綱吉が代替わりの武家諸法度を打ち出す。
殉死を禁、末期養子の禁を緩和。湯島に聖堂を建てて朱子学教授。

藩にも学校。武芸よりむしろ学問で人を育てる時代

商業の発達を背景に、武士層も贅沢になってきました。知力派は自らの存在基盤を強化するために多くの儀礼を設け、そのための出費

綱吉の時代に金山、銀山が掘り尽くされ、幕府財政の危機促進、貨幣の改鋳を行ない、民衆はインフレで苦しむこととなります。

*蓄財派の台頭と、それを押さえ込む努力

8代将軍吉宗による改革（1716～45年）

○蓄財派（ヴァイヤ）の台頭

田沼意次、株仲間という商人の同業者団体を認め、運上・冥加金という雑税、財政基盤として商人重視

印旛沼の開拓、洪水で決壊、賄賂横行、意次失脚

商人の財力に武士層は依存し、大名さえひれ伏すことになる。大名貸という商人も現れた。

◇1841年から老中の水野忠邦が天保の改革を行ない、蓄財派に制約を課す時代錯誤の試みを。物価を高騰させるのは商人団体だとみて株仲間を解散

○大衆（シュードラ）反乱の時代から明治維新へ

元文一揆がおき、村単位ではなく藩全域を巻き込む。

1837年、大坂東町奉行所の元与力で陽明学者の大塩平八郎です。

大塩平八郎は、サーカーの言うところのヴィクシュブダ・シュードラすなわち「不満を持ったシュードラ」であり、サドヴィプラ（精神性の高い革命家）。

▼第3サイクル（明治～昭和前期（敗戦））

ヴィクシュブダ・シュードラから蓄財派（ヴァイヤ）へ

○ヴィクシュブダ・シュードラとしての武勇派の活躍の時代へ

1858年安政の大獄、1860年の桜田門外の変、坂下門外の変。

大政奉還、鳥羽伏見の戦い、薩摩と長州の連合に土佐、肥前が加わった新政府軍が勝利

○1868年に新政府は五カ条の誓文、五榜の掲示を發布

明治維新は社会サイクル論ではシュードラ革命でした。シュードラ（庶民）の反乱を背景に、シュードラ的生活状態に低下したクシャトリアとヴィプラのメンタリティの持ち主＝下級武士層がリーダーとなって旧サイクルの権力を倒したものでした。

明治政府は版籍奉還、廃藩置県によって藩を廃止し、警察制度を整え、富国強兵を進めて、国権回復、民族独立、このナショナリズムは一方で西洋列強に向かうとともにアジアの強国としての日本の実現をめざす。

言論で戦う知力派勢力、板垣退助は、立志社、自由党の形で自由民権運動、1889年伊藤博文が起草した大日本帝国憲法が發布され、議会が開かれます。

＊武勇派と知力派の主導権争い

○蓄財派の指導権獲得とその自己破たん

明治以来の社会サイクルの特徴は、富国強兵政策の必要から蓄財派を厚遇してきたことです。武勇派、知力派が繰り広げる政治舞台での抗争の背後で着実に蓄財派が力をつけてゆきました。

1927年の金融恐慌、日本まで及んだ1929年の世界恐慌、その後続く不況の中で金融資本の淘汰が進み、三井や三菱など財閥（＝蓄財派）が巨大な力を持つようになっていきました。

○反進化・反革命の展開

急速な近代産業の発達の中で、蓄財派は国内市場が狭隘なために海外市場、そして原料を欲します。そして蓄財派の僕となっている知力派は、大衆の貧窮化と一部への富の集中の現実から大衆の目をそらすために大衆の間にナショナリズムをあおり、軍事的対外進出が可能な状況をつくります。サーカーはそうしたナショナリズムを説く知力派を悪魔的ヴィプラと呼びます。

1931年の柳条湖事件をきっかけに関東軍が満州全土を制圧しました。犬養内閣は満州国の建国を渋って軍部と衝突し、1932年の5・15事件で犬養は暗殺されました。国連のリットン調査団が日本の侵略だと断定し、国連で日本が撤退すべきと決議されました。それを不服として日本は国連を脱退しました。

○右翼知力派と偽武勇派 反革命の達成と日本社会の崩壊

1932年、血盟団事件。1936年2月26日、天皇親政を求める青年将校たち（皇道派）が、高橋是清蔵相などを殺害しました。それに対して東条英機たちは統制派と呼ばれ、2・26事件以後、皇道派は陸軍内部では消滅し、統制派の指導権が確立します。

悪魔的ヴィプラ（偽武勇派）として強硬に中国進出を主張し、1937年に関東軍参謀長になって中国侵略を拡大させました。そして1941年に彼は昭和天皇の庇護の下に首相、内務大臣、陸軍大臣を兼任する独裁的な権力を握り、対英米開戦にふみきりました。

1945年8月15日、政府は、連合軍に無条件降伏し、日本社会は、明治以来のサイクルの終わりを迎えました。

▼第4サイクル 敗戦～現代

○戦後民主主義の前進 シュトラー的進化

日本の降伏文書の調印、昭和天皇の人間宣言、基本的人権。財閥解体、農地改革、労働組合法、平和憲法。

○アメリカへの従属の下での蓄財派の発展

アメリカの極東戦略の明確化：「反共の防波堤としての日本」

労働運動の圧殺：一連の謀略事件（三鷹、下山事件）

朝鮮戦争、ベトナム戦争の特需を通じての日本資本主義の復活。

高度経済成長へ。60年安保闘争の後の「所得倍増計画」

○日本資本主義の経済的自立・発展と挫折

1973年、第1次オイルショック。安定成長へ。

1988年～90年、バブル経済。90年、ソ連の崩壊。グローバル資本主義へ。

2008年秋、世界金融危機。世界的不況へ。

▼第5サイクル——そして今後の展望 サドヴィプラの多数形成へ

人類社会の大きなサイクル（シュードラ→武勇派→知力派→蓄財派）の終了。

（岩崎：サイクルの永続という考え方には反対）

多層の人々のシュードラ化（貧困化、疎外、人格的分裂、…）

ヴィクシュブダ・シュードラの進化、革命へ

サドヴィプラ化の時代の到来